

消化器内科 肝臓内科

三田英治

消化器科は、① 肝炎・肝癌診療、② 内視鏡治療、③ 消化器癌に対する化学療法を診療の3つの柱にしています。論文や学会発表も、この3つの柱を中心に活動しています。

まずC型肝炎およびB型肝炎に対する抗ウイルス療法ですが、その診療患者数が日本でも常にトップクラスにランクされ、国内のみならず海外の学会・学術誌に情報発信してまいりました。本年度もC型肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン併用療法の有効性、そして難治例に対する治療の工夫を報告しました。特に血小板数低値例に対する腹腔鏡下摘脾術の効果を検証しました。当科のB型肝炎に対する抗ウイルス剤（特に核酸アナログ）治療も国内で高い評価を受けている領域です。核酸アナログ naïve 例に対するエンテカビル単独治療およびラミブジン耐性例に対するアデホビル併用療法では、国立病院機構の治療成績をとりまとめています。

内視鏡治療では、早期胃癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）に力を入れ、診療レベルの向上をはかってきました。適応拡大病変の検討や安全性の評価を発表しています。

消化器癌に対する化学療法も、論文や海外の学会で発表できるまでに成熟してきました。これから最ものびる領域と思います。

上記のほかにも、臨床的に稀な症例や貴重な経験症例の報告をしています。特に症例報告は専修医・研修医の初めての学会発表の場として、消化器科をあげて指導に力を入れています。今後も、診療・教育とともに臨床研究の成果を国内外に発信してゆきたいと思います。

【2010年度研究発表業績】

A-0

Inoue Y, Hiramatsu N, Oze T, Yakushijin T, Mochizuki K, Hagiwara H, Oshita M, Mita E, Fukui H, Inada M, Tamura S, Yoshihara H, Hayashi E, Inoue A, Imai Y, Kato M, Miyagi T, Hohsui A, Ishida H, Kiso S, Kanto T, Kasahara A, Takehara T, Hayashi N. Factors affecting efficacy in patients with genotype 2 chronic hepatitis C treated by pegylated interferon alpha-2b and ribavirin: reducing drug doses has no impact on rapid and sustained virological responses. **J Viral Hepat.** 2010;17(5):336-344. (2010年5月)

Nakazuru S, Yoshio T, Suemura S, Itoh M, Araki M, Yoshioka C, Ohta M, Sueyoshi Y, Ohta T, Hasegawa H, Morita K, Toyama T, Kuzushita N, Kodama Y, Mano M, Mita E. Poorly differentiated endocrine carcinoma of the pancreas responded to gemcitabine: Case report. **World J Gastroenterol.** 2010;16(30):3853-3856. (2010年8月)

Hasegawa H, Fujitani K, Kurokawa Y, Hirao M, Nakazuru S, Mita E, Tsujinaka T. Effect of S-1 adjuvant chemotherapy on survival following recurrence and efficacy of first-line treatment in recurrent gastric cancer. **Chemotherapy.** 2010;56(6):436-443. (2010年11月)

Tatsumi T, Takehara T, Miyagi T, Nakazuru S, Mita E, Kanto T, Hiramatsu N, Hayashi N. Hepatitis C virus-specific CD8⁺ T cell frequencies are associated with the responses of pegylated interferon- α and

ribavirin combination therapy in patients with chronic hepatitis C virus infection. **Hepatol Res.** 2011;41(1):30-38. (2011年1月)

Migita K, Watanabe Y, Jiuchi Y, Nakamura Y, Saito A, Yagura M, Morimoto H, Shimada M, Mita E, Hijioka T, Yamashita H, Takezaki E, Muro T, Sakai H, Nakamura M, Abiru S, Yano K, Komori A, Yatsushashi H, Nakamura M, Ishibashi H. Evaluation of risk factors for development of cirrhosis in autoimmune hepatitis: Japanese NHO-AIH prospective study. **J Gastroenterol.** 2011;46 Suppl 1:56-62. (2011年1月)

Ikura Y, Mita E, Nakamori S. Hepatocellular carcinomas can develop in simple fatty livers in the setting of oxidative stress. **Pathology.** 2011;43(2):167-168. (2011年2月)

Inoue Y, Hiramatsu N, Oze T, Yakushijin T, Mochizuki K, Fukuda K, Mita E, Haruna Y, Inoue A, Imai Y, Hosui A, Miyagi T, Yoshida Y, Tatsumi T, Kiso S, Kanto T, Kasahara A, Takehara T, Hayashi N. Amino acid substitution in the core protein has no impact on relapse in hepatitis C genotype 1 patients treated with peginterferon and ribavirin. **J Med Virol.** 2011;83(3):419-427.(2011年3月)

A-3

金子晃、久保光彦、山田涼子、谷村知紀、山口大輔、山本守敏、巽信之、中間昭弘、三田英治、加藤道夫、肱岡泰三、尾下正秀、伊藤敏文、今中和穂、片山和宏、佐藤雅子、吉原治正、桐山和雄、今井康陽、柏原赳、福井弘幸、鈴木都男、三好志雄、山田晃、薬師神崇行、望月圭、平松直樹、竹原徹郎、林紀夫：自己免疫性肝炎の新しい国際診断基準の検証。 **日本消化器病学会雑誌** 2010;107(5):732-742. (2010年5月)

富成伸次郎、葛下典由、坂東裕基、外山隆、上平朝子、三田英治：肺炎球菌による脾摘後重症感染症 (OPSI) の1例。 **臨床消化器内科** 2010;25(5):617-622. (2010年5月)

由雄敏之、葛下典由、小川吉彦、笠井大介、上平朝子、三田英治：後天性免疫不全症候群に関連した特発性食道潰瘍。 **臨床消化器内科** 2010;25(10):1409-1414. (2010年10月)

長谷川裕子、葛下典由、中水流正一、伊藤麻里、荒木学、吉岡千晶、末村茂樹、大田真紀代、由雄敏之、外山隆、伊倉義弘、三田英治：経皮的肝腫瘍生検にて診断された肝原発神経内分泌癌の1例。 **日本消化器病学会雑誌** 2010;107(12):1956-1962. (2010年12月)

葛下典由、上平朝子、中水流正一、外山隆、由雄敏之、三田英治：HIV感染経過観察中、B型急性肝炎を起こし慢性化した1例。 **臨床消化器内科** 2011;26(1):117-121. (2011年1月)

長谷川裕子、中水流正一、三田英治：【Q&Aでまるわかり 肝臓疾患の栄養療法】アルコール性肝障害。 **Nutrition Care** 2011;4(2):156-162. (2011年2月)

A-5

三田英治: B型慢性肝炎に対する新規逆転写酵素阻害剤テノホビルの有効性・安全性に関する検討。厚生労働省科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）「B型慢性肝炎に対する新規逆転写酵素阻害剤テノホビルの有効性・安全性に関する検討」平成22年度総括・分担報告書、P. 1-10、2011年3月

三田英治: C型肝炎・血小板低値例に対するインターフェロン治療のありかた。厚生労働省科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）「C型肝炎難治症例の病態解明と抗ウイルス治療に関する研究」平成22年度総括・分担報告書、P. 50-54、2011年3月

三田英治: 当科における IL-28B とインターフェロン治療効果について。厚生労働省科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）「データマイニング手法を用いた効果的な治療方法に関する研究」平成22年度総括・分担報告書、印刷中、2011年3月

三田英治: 当院における B型急性肝炎の現況と治療介入（HIV感染者も含めて）。厚生労働省科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）「B型肝炎ジェノタイプ A型感染の慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究」平成22年度総括・分担報告書、印刷中、2011年3月

B-2

Maeda K, Michida T, Yoshio T. Perforation and its trouble shooting in endoscopic submucosal dissection(ESD) for early gastric cancer(EGC) including management of delayed perforation. **18th UEGW Barcelona**, 2010年10月

Ota M, Yoshio T, Ota T, Tanaka E, Ito M, Araki M, Suemura S, Yoshioka C, Yuguchi K, Hasegawa H, Sakakibara Y, Toyama T, Nakazuru S, Kuzushita N, Mita E. Clinical course and management of eight cases of gastrointestinal Kaposi's sarcoma related to the acquired immunodeficiency syndrome. **18th UEGW Barcelona**, 2010年10月

Kurokawa M, Hiramatsu N, Oze T, Yakushijin T, Mochizuki K, Iio S, Doi Y, Yamada A, Oshita M, Kaneko A, Hagiwara H, Mita E, Ito T, Inui Y, Katayama K, Yoshihara H, Imai Y, Hayashi E, Miyagi T, Yoshida Y, Ishida H, Tatsumi T, Kanto T, Kasahara A, Takehara T, Hayashi N. Long-term effect of lamivudine treatment on the incidence of hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis B virus. **The 62th American Association for the Study of Liver Diseases, Annual Meeting**, Boston, USA, 2010年11月

Kuzushita N, Suemura S, Toyama T, Hasegawa H, Yuguchi K, Sakakibara Y, Yoshio T, Nakazuru S, Yuki N, Mita E. Long-term efficacy of lamivudine/emtricitabine and tenofovir combination therapy on HBV/HIV co-infected Japanese patients. **The 62th American Association for the Study of Liver Diseases, Annual Meeting**, Boston, USA, 2010年11月

Oze T, Hiramatsu N, Yakushijin T, Mochizuki K, Oshita M, Hagiwara H, Mita E, Fukui H, Inui Y, Hijioka T, Inada M, Tamura S, Yoshihara H, Inoue A, Imai Y, Kato M, Hosui A, Miyagi T, Yoshida Y, Tatsumi T,

Kiso S, Kanto T, Kasahara A, Takehara T, Hayashi N. Suppressive effect of pegylated interferon alfa-2b plus ribavirin combination therapy on incidence of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C. **The 62th American Association for the Study of Liver Diseases, Annual Meeting**, Boston, USA, 2010 年 11 月

Yuki N, Matsumoto S, Ikura Y, Kato M, Yamaguchi T. Hepatic IFN-b response negativity regulates steatosis in chronic hepatitis C genotype 1. **The 62th American Association for the Study of Liver Diseases, Annual Meeting**, Boston, USA, 2010 年 11 月

Suemura S, Kuzushita N, Yuguchi K, Hasegawa H, Sakakibara Y, Yoshio T, Nakazuru S, Toyama T, Mita E. Long-term efficacy of lamivudine/emtricitabine and tenofovir combination therapy on HBV/HIV co-infected patients. **The 21th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver**, Bangkok, Thailand, 2011 年 2 月

B-3

葛下典由、外山隆、三田英治：ワークショップ 4「B 型肝炎の母子および水平感染の実態とワクチン戦略」 当院における B 型急性肝炎の現況と治療介入。第 46 回日本肝臓学会総会、山形、2010 年 6 月

（座長）結城暢一：ポスターセッション 11「C 型肝炎（臨床）11」第 46 回日本肝臓学会総会、山形、2010 年 6 月

（座長）里見絵理子：パネルディスカッション 3「緩和ケアにおいて内科治療をどこまでやるか」。第 15 回日本緩和医療学会学術大会、東京、2010 年 6 月

（座長）三田英治：一般ポスター 24「ウイルス肝炎と肝臓－HBV」第 46 回日本肝臓学会総会、大阪、2010 年 7 月

（座長）三田英治：ポスターセッション「C 型肝炎（治療）6」第 14 回日本肝臓学会大会、横浜、2010 年 10 月

（座長）三田英治：ポスターセッション「肝臓腫瘍 7」第 52 回日本消化器病学会大会、横浜、2010 年 10 月

三田英治：サテライトシンポジウム「HBV と HIV の Co-infection について」当科における HBV/HIV 重複感染例に対する治療の現況。JDDW 2010 Yokohama、2010 年 10 月

（座長）中水流正一：肝 4. 日本消化器病学会近畿支部第 94 回例会、大阪、2011 年 2 月

B-4

森田香織、由雄敏之、伊藤麻里、末村茂樹、荒木学、吉岡千晶、末吉由佳、大田真紀代、長谷川裕子、太田高志、里見絵理子、外山隆、中水流正一、葛下典由、三田英治：胃原発転移性大腸癌の2例。第96回日本消化器病学会総会、新潟、2010年4月

森田香織、由雄敏之、伊藤麻里、吉岡千晶、末村茂樹、荒木学、大田真紀代、末吉由佳、長谷川裕子、太田高志、里見絵理子、外山隆、中水流正一、葛下典由、三田英治：当院の消化管出血に対する緊急大腸内視鏡の検討。第79回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2010年5月

外山隆、伊藤麻里、荒木学、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、末吉由佳、長谷川裕子、太田高志、森田香織、由雄敏之、中水流正一、葛下典由、結城暢一、三田英治：C型慢性肝炎において10ng/ml以下のAFP値が意味するもの。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、三田英治、田村信司、吉原治正、今井康陽、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Peg-IFN/Ribavirin 併用療法非著効例に対する再治療について—多施設（OLF）共同研究—。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

佐藤雅子、澁川成弘、村田真衣子、平尾元宏、山田幸則、吉原治正、三田英治、尾下正秀、福井弘幸、永瀬寿彦、桐山和雄、鈴木都男、今井康陽、井上敦雄、久保光彦、平松直樹、竹原徹郎、林紀夫：NASHの組織学的線維化の進展に関与する因子の検討。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

黒川三佳、平松直樹、倉繁奈緒、小瀬嗣子、薬師神崇行、望月圭、北田学利、土井喜宣、山田晃、尾下正秀、金子晃、萩原秀紀、三田英治、永瀬寿彦、吉原治正、今井康陽、林英二郎、木曾真一、考藤達哉、竹原徹郎、林紀夫：B型慢性肝疾患に対するラミブジン投与症例における肝発癌についての検討。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

井上裕子、平松直樹、小瀬嗣子、薬師神崇行、望月圭、三田英治、春名能通、井上敦雄、福田和人、今井康陽、加藤道夫、法水淳、宮城琢也、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：難治性C型肝炎に対するPeg-IFN/Ribavirin 併用療法におけるHCV Core領域アミノ酸変異が治療後再燃におよぼす影響について。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、山田晃、小川弘之、三田英治、桐山和雄、永瀬寿彦、福井弘幸、鈴木都男、肱岡泰三、稻田正己、吉原治正、今井康陽、法水淳、宮城琢也、吉田雄一、石田永、巽智秀、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Real time PCR法を用いたHCV-RNA測定系におけるC型肝炎に対するPeg-IFN/RBV 併用療法の治療効果予測。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、三田英治、吉原治正、今井康陽、吉田雄一、石田永、巽智秀、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Peg-IFN/Ribavirin 併用療法の肝発癌抑制効果について—多施設（OLF）共同研究—。第46回日本肝臓学会総会、山形、2010年6月

黒川三佳、平松直樹、小瀬嗣子、薬師神崇行、望月圭、北田学利、飯尾禎元、土井喜宣、尾下正秀、金子晃、萩原秀紀、三田英治、伊藤敏文、乾由明、片山和宏、吉原治正、今井康陽、林英二郎、竹原徹郎、林紀夫：肝細胞癌治療後 C 型肝炎に対する Peg-IFN/Ribavirin 併用療法の治療効果と肝癌再発について。第 46 回日本肝臓学会総会、山形、2010 年 6 月

末村茂樹、葛下典由、伊藤麻里、荒木学、吉岡千晶、大田真紀代、末吉由佳、長谷川裕子、森田香織、太田高志、由雄敏之、中水流正一、外山隆、結城暢一、三田英治：HBV/HIV 重複感染例におけるラミブジン、テノホビル併用長期治療効果。第 46 回日本肝臓学会総会、山形、2010 年 6 月

入潮佳子、今井康陽、福田和人、井倉技、澤井良之、小来田幸世、三田英治、葛下典由、永瀬寿彦、土井喜宣、山田晃、加藤道夫、平松直樹、竹原徹郎、林紀夫：1 型高ウイルス量以外の C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN α -2a 単独療法の SVR に寄与する因子の検討。第 46 回日本肝臓学会総会、山形、2010 年 6 月

上田純子、梶原絹代、四方文子、森岡亜希子、道川綾加、立花泉、徳永尚美、渡辺真弓、岡本学、里見絵理子：がん看護相談における現状と課題。第 15 回日本緩和医療学会学術大会、東京、2010 年 6 月

井上敦介、松山和代、里見絵理子、上田純子、尾池真理、上野裕之、山内一恭、本田芳久、廣常秀人、辻仲利政、小森勝也：当院におけるフェンタニル MT パッチ 2.1mg の使用状況について。第 15 回日本緩和医療学会学術大会、東京、2010 年 6 月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、尾下正秀、萩原秀紀、三田英治、乾由明、田村信司、吉原治正、今井康陽、加藤道夫、宮城琢也、吉田雄一、巽智秀、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Peg-IFN/Ribavirin 併用療法の肝発癌抑制効果について—多施設（OLF）共同研究—。第 46 回日本肝癌研究会、大阪、2010 年 7 月

荒木学、外山隆、伊藤麻里、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、末吉由佳、太田高志、長谷川裕子、森田香織、由雄敏之、里見絵理子、中水流正一、葛下典由、三田英治：肝腫瘍破裂にて発症し、剖検により明らかとなった肝血管肉腫の 1 例。第 46 回日本肝癌研究会、大阪、2010 年 7 月

黒川三佳、平松直樹、小瀬嗣子、薬師神崇行、望月圭、土井喜宣、尾下正秀、金子晃、萩原秀紀、三田英治、永瀬寿彦、吉原治正、今井康陽、林英二郎、石田永、巽智秀、木曾真一、考藤達哉、竹原徹郎、林紀夫：B 型慢性肝疾患に対するラミブジン投与症例における肝発癌についての検討。第 46 回日本肝癌研究会、大阪、2010 年 7 月

西山典子、宮竹英希、榎原良一、尾下正秀、土井喜宣、金子晃、三田英治、永瀬寿彦、福井弘幸、鈴木都男、肱岡泰三、稲田正己、片山和宏、吉原治正、井上敦雄、今井康陽、薬師神崇行、平松直樹、竹原徹郎、林紀夫：OLF 関連施設における NASH 肝癌および NASH 関連肝癌の実態について。

第 46 回日本肝癌研究会、大阪、2010 年 7 月

由雄敏之、葛下典由、三田英治、池田昌弘：シンポジウム 3「炎症性食道・胃疾患の病態と診療の進歩」後天性免疫不全症候群に関連した食道潰瘍の検討。日本消化器病学会近畿支部第 93 回例会、大阪、2010 年 9 月

尾池真理、上田純子、梶原絹代、四方文子、森岡亜希子、立花泉、徳永尚美、里見絵理子、辻仲利政：がん患者カウンセリング料算定に向けた取り組みと今後の課題。第 7 回関西がんチーム医療研究会、大阪、2010 年 9 月

田中絵里、湯口清徳、由雄敏之、伊藤麻里、吉岡千晶、末村茂樹、荒木学、大田真紀代、長谷川裕子、榊原祐子、里見絵理子、中水流正一、外山隆、葛下典由、三田英治、小川吉彦、富成伸次郎、児玉良典、真能正幸：HIV 感染症に関連したサイトメガロウイルス (CMV) 胃潰瘍の 1 例。第 85 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会、大阪、2010 年 10 月

三田英治、葛下典由、田中絵里、伊藤麻里、荒木学、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、湯口清徳、長谷川裕子、榊原祐子、由雄敏之、中水流正一、外山隆、結城暢一、加藤道夫：HCV genotype 2 型・高ウイルス量症例に対する Peg-IFN α -2b・リバビリン併用療法の当科における成績—TaqMan 法導入以降の症例の解析—。第 14 回日本肝臓学会大会、横浜、2010 年 10 月

井上裕子、平松直樹、小瀬嗣子、薬師神崇行、望月圭、萩原秀紀、尾下正秀、三田英治、福井弘幸、田村信司、吉原治正、林英二郎、井上敦雄、今井康陽、加藤道夫、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Genotype 2 型 C 型肝炎 non-RVR 症例に対する Peg-IFN/Ribavirin 長期投与の有効性について。第 14 回日本肝臓学会大会、横浜、2010 年 10 月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、萩原秀紀、三田英治、田村信司、吉原治正、今井康陽、林英二郎、吉田雄一、巽智秀、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Peg-IFN/Ribavirin 非著効例に対する再治療について—多施設 (OLF) 共同研究—。第 14 回日本肝臓学会大会、横浜、2010 年 10 月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、尾下正秀、三田英治、吉原治正、今井康陽、木曾真一、考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Peg-IFN/Ribavirin 併用療法の肝発癌抑制効果について—多施設 (OLF) 共同研究—。第 14 回日本肝臓学会大会、横浜、2010 年 10 月

黒川三佳、平松直樹、小瀬嗣子、薬師神崇行、望月圭、飯尾禎元、土井喜宣、尾下正秀、金子晃、萩原秀紀、三田英治、伊藤敏文、乾由明、片山和宏、吉原治正、今井康陽、林英二郎、竹原徹郎、林紀夫：肝癌治療後 C 型肝炎に対する Peg-IFN/Ribavirin 併用療法の治療効果と肝癌再発について。第 14 回日本肝臓学会大会、横浜、2010 年 10 月

小瀬嗣子、平松直樹、薬師神崇行、望月圭、萩原秀紀、三田英治、吉原治正、今井康陽、石田永、

考藤達哉、笠原彰紀、竹原徹郎、林紀夫：Real time PCR法を用いたHCV-RNA測定系におけるC型肝炎に対するPeg-IFN/RBV併用療法の治療効果予測。第14回日本肝臓学会大会、横浜、2010年10月

大田真紀代、葛下典由、伊藤麻里、荒木学、末村茂樹、吉岡千晶、末吉由佳、太田高志、長谷川裕子、巽香織、由雄敏之、里見絵理子、外山隆、中水流正一、結城暢一、三田英治：C型慢性肝炎治療後、脾摘後重症感染症を来した1例。第52回日本消化器病学会大会、横浜、2010年10月

伊藤麻里、由雄敏之、荒木学、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、末吉由佳、太田高志、長谷川裕子、森田香織、里見絵理子、外山隆、中水流正一、葛下典由、結城暢一、三田英治：後天性免疫不全症候群に関連した特発性食道潰瘍が多剤併用抗レトロウイルス療法を行うことで軽快した2例。第52回日本消化器病学会大会、横浜、2010年10月

荒木学、中水流正一、伊藤麻里、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、末吉由佳、太田高志、長谷川裕子、巽香織、由雄敏之、外山隆、葛下典由、三田英治：胆嚢印環細胞癌の1剖検例。第52回日本消化器病学会大会、横浜、2010年10月

吉岡千晶、由雄敏之、伊藤麻里、荒木学、末村茂樹、大田真紀代、末吉由佳、太田高志、長谷川裕子、巽香織、里見絵理子、中水流正一、外山隆、葛下典由、結城暢一、三田英治：当院における内視鏡的胃瘻造設術後の早期死亡に関わる因子の検討。第80回日本消化器内視鏡学会総会、横浜、2010年10月

藤谷和正、平尾素宏、黒川幸典、長谷川裕子、辻江正徳、安井昌義、大宮英泰、宮本敦史、池永雅一、高見康二、三嶋秀行、中森正二、辻仲利政：進行胃癌症例におけるPCS (Paclitaxel-Cisplatin-S1) 療法のfeasibility study。第48回日本癌治療学会学術集会、京都、2010年10月

長谷川裕子、藤谷和正、平尾素宏、黒川幸典、大田真紀代、湯口清徳、榊原祐子、由雄敏之、中水流正一、外山隆、葛下典由、三田英治、辻仲利政：進行食道癌に対するNAF療法の効果発現に影響する因子の検討。第48回日本癌治療学会学術集会、京都、2010年10月

田中絵里、伊藤麻里、荒木学、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、湯口清徳、長谷川裕子、榊原祐子、由雄敏之、外山隆、葛下典由、結城暢一、三田英治：B型慢性肝疾患に対するエンテカビル治療の早期反応良好を規定する因子について。第38回日本肝臓学会東部会、東京、2010年12月

今中和穂、山田晃正、片山和宏、吉原治正、井上敦雄、尾下正秀、今井康陽、稲田正己、三田英治、林英二郎、福井弘幸、肱岡泰三、飯尾禎元、平松直樹、竹原徹郎：進行肝細胞癌に対するソラフェニブ療法—多施設(OLF)共同研究—。第3回日本肝がん分子標的治療研究会、下関、2011年1月

杉本彩、吉岡千晶、由雄敏之、田中絵里、伊藤麻里、荒木学、末村茂樹、大田真紀代、湯口清徳、

長谷川裕子、榊原祐子、外山隆、中水流正一、葛下典由、三田英治：著明な貧血を契機に発見された肛門原発悪性黒色腫の1例。日本消化器病学会近畿支部第94回例会、大阪、2011年2月

長谷川裕子、藤谷和正、中水流正一、三田英治、平尾素宏、辻仲利政：高齢者進行・再発胃癌に対する化学療法の予後因子解析。第83回日本胃癌学会総会、青森、2011年3月

伊藤麻里、由雄敏之、田中絵里、荒木学、末村茂樹、吉岡千晶、大田真紀代、湯口清徳、長谷川裕子、榊原祐子、外山隆、中水流正一、葛下典由、三田英治、太田高志：髄膜癌腫症で発症し、多発小腸・大腸転移を認めた胃癌の一例。第86回日本消化器内視鏡学会近畿地方会、京都、2011年3月

B-8

里見絵理子：呼吸困難：マイクロティーチング。第1回大阪府緩和ケア指導者のためのスキルアップ講習会、大阪、2010年5月

里見絵理子：緩和ケアチームとしてのがん性疼痛治療の支援について。国立病院機構姫路医療センター緩和ケアセミナー、姫路、2010年6月

里見絵理子：緩和ケアチームの運営。神戸市立中央市民病院緩和ケア講演会、神戸、2010年7月

里見絵理子：オピオイドを開始するとき。淀川キリスト教病院緩和ケア研修会、大阪、2010年8月

結城暢一：医師臨床研修の現状と問題点。大阪大学指導医講習会、大阪、2010年9月

里見絵理子：がん性疼痛治療とチーム医療。社会医療法人慈泉会相澤病院緩和医療講演会、松本、2010年9月

里見絵理子：緩和ケアについて。大阪歯科大学医療安全講演会、大阪、2010年9月

里見絵理子：教育技法。厚生労働省委託事業日本緩和医療学会緩和ケア基本教育のための指導者講習会、大阪、2010年9月

里見絵理子：がん疼痛の評価と治療。大阪警察病院緩和ケア研修会、大阪、2010年9月

里見絵理子：がん疼痛の評価と治療。日生病院緩和ケア研修会、大阪、2010年10月

里見絵理子：緩和ケアチームの立ち上げ方。国立がん研究センター主催 緩和ケアチーム研修会、大阪、2010年10月

里見絵理子：教育の実践「グループ分けの方法」．厚生労働省委託事業日本緩和医療学会緩和ケア基本教育のための指導者講習会、船橋、2010年11月

里見絵理子：オピオイドを開始するとき：運営方法．第2回大阪府緩和ケア指導者のためのスキルアップ講習会、大阪、2010年12月

里見絵理子：オピオイドを開始するとき．厚生労働省委託事業日本緩和医療学会緩和ケア教育のための指導者講習会、船橋、2011年1月

結城暢一： 医師臨床研修制度改正について．大阪医科大学指導医講習会、大阪、2011年2月

結城暢一： 医師臨床研修制度の運用上の留意点．近畿臨床研修病院担当者会議、大阪、2011年3月

結城暢一： 医学生のための医師臨床研修制度の概説．厚生労働省近畿臨床研修病院説明会、大阪、2011年3月

里見絵理子：緩和ケアチーム紹介・アイスブレイキング．第2回大阪府緩和ケアチーム研修会、大阪、2011年3月

B-9

三田英治：e-カンパニ TV. 「C型肝炎」ABC テレビ、2010年8月22日

三田英治：サンデー・ドクター. 「肝炎 1～沈黙の臓器を冒すウイルス～」読売テレビ、2011年1月9日

三田英治：サンデー・ドクター. 「肝炎 2～沈黙の臓器を冒すウイルス～」読売テレビ、2011年1月16日